

粕屋町行政評価委員会 意見書

平成 30 年 12 月 4 日

粕屋町行政評価委員会

平成 30 年 12 月 4 日

粕屋町長 箱田 彰 殿

粕屋町行政評価委員会

会長 中 島 邦 彦

粕屋町行政評価委員会におきまして、粕屋町行政評価委員会設置要綱第 2 条に基づき、町が実施した平成 29 年度の行政評価について、外部の視点で評価を実施し、その結果を取りまとめましたので、次のとおり報告し、意見書を提出いたします。

本委員会では、第 5 次粕屋町総合計画基本計画に基づく施策について、平成 29 年度における取り組み、評価結果等の概要を評価シート及び質疑応答により確認し、外部評価の対象施策とした次の 2 施策について、主に点検・調査・審議を行い、各委員による評価を行いました。

- ・施策体系（3-2-1） 安心して子育てできる環境づくりの推進
- ・施策体系（4-1-1） まちの魅力を高める情報発信の推進

■総合計画の施策体系（3-2-1）■

基本目標3	誰もが安心して暮らせるやすらぎのまち
政策2	子育て世代が明るく暮らせるまちづくり
基本施策(1)	安心して子育てできる環境づくりの推進

1. 委員会における施策の選定理由

粕屋町は転入者が多くだけでなく、出生率が高く、子どもや子育て世代の人口が増加し続けており、待機児童の問題や子育て支援に関する本施策は住民からの関心が高い。また、新たな子育て支援の拠点として町が平成28年5月に開館した、かすやこども館の運営状況を確認する上でも本施策を外部評価の対象とした。

2. 委員会の評価結果及び意見等

本施策に関する委員会としての外部評価の結果は、以下のとおりである。

(1) 総合計画の進行管理（施策実現への進捗状況）	
① 施策実現への取り組みが行われているか？	
着実に取り組まれており評価できる	0%
取り組まれているが、まだ改善の余地がある	89%
取り組みが不十分であり対策が必要である	11%
取り組みがなされていない	0%
② 施策の実現に向かって、進捗しているか？	
計画以上に進んでいる	0%
計画どおり順調に進んでいる	0%
進んではいるが、スピードが遅い	100%
進捗が見られない、または後退している	0%
(2) 内部評価の妥当性について	
適切	0%
概ね適切	100%
要検討	0%
無回答	0%

(1) 総合計画の進行管理（施策実現への進捗状況）

① 施策実現への取り組みが行われているか？

施策実現への取り組みが行われているかについては、「取り組まれているが、まだ改善の余地がある」という評価が89%であった。

また、各委員から次のような意見があった。

- ・ 保育士の処遇改善、臨時職員の募集、老朽化保育所の補修、学童保育の定員増、各区への親子サロン設置など積極的に取り組まれているが、まだ、不十

分で改善の余地がある。

- ・ 保育士や指導員の増員といった量的な取組みはもちろんだが、すでに課題として認識されているように、優秀な保育士の確保や、全指導員の放課後児童支援員の資格取得など、質の向上に向けたさらなる取組みに期待したい。
- ・ 仲原小学童保育所の増築により 40 名の定員が増えた一方で、希望者保育率が前年度よりも低下しており、また、町立保育所の待機児童解消に向けて、学童保育所と町立保育所の増築等を検討する必要がある。
- ・ 学童保育については、専用施設だけではなく、公民館や学校の特別教室などの既存の施設の利用や、高齢者などのボランティアの人材活用も検討しなければ、正職員で全てまかなうのは難しいのではないかと。
- ・ 仲原・中央保育所老朽化に対する取組みが従来から言われているにもかかわらず遅すぎる。
- ・ 多様性社会へ向けて、国の方向性、町民ニーズがとても流動的であるので、目標の見直しも必要なのではないか。例えば 10 年前は家庭で育児をしている方が多く、各区に子育てサロンの開設を推進してきたが、現在は保育所入所のニーズが高まり、子育てサロンの利用者は減少傾向にある。必要などころに必要なサービスが行き届くよう、きめ細かい調査と検証をしてほしい。
- ・ 保育士や学童保育の指導員がどの自治体でも不足しており、職安や広報、ホームページに掲載しているだけでは人員の確保は難しいのではないかと。
- ・ 障害児保育において、声なき声に気付き、町全体で取り組んでほしい。
- ・ こども館運営管理事業の現状認識について、小学生以下の利用者数が減少傾向にあるとの分析がなされているが、他の年齢層と比較し、伸び幅は少ないが、減少傾向とまでは言えないため、表現の工夫が必要である。

② 施策の実現に向かって、進捗しているか？

施策の実現に向かって進捗しているかについては、委員全員が「進んではいるが、スピードが遅い」という評価になった。

また、各委員から次のような意見があった。

- ・ 学童保育の待機児童や指導員の人材確保は急務であり、スピード感を持った対策が必要である。
- ・ 町立、認可、届出保育所の有機的な連携、広域利用の調整など、町が積極的に指導することが必要と思われる。
- ・ 親子サロンの人材確保にも町が積極的に関与してはどうか。
- ・ 老朽化・耐震対策等課題が多い町立保育所を、早急に建て替える必要がある。
- ・ 保育の資質向上には、充実した施設は必須である。建替えの際には専門家を交えて職員の負担が軽減するような働きやすい職場環境をよく検討してほしい。また、既存の園についても、町との意見交換を活発にし、具体的な住民ニーズをサービスにつなげてもらいたい。
- ・ 子育て支援事業の委託に関して、さらに協働団体の発掘を行うため、また、

公金支出の透明性、公平性を図るため、広報活動等を通じ、広く町民に呼びかけることが望ましいと考える。

- ・ 目標値より実績値が下回る項目が散見される。例えば子育て支援事業の親子サロン年間利用者数の目標値は500人増加の目標だが、実績値は91人減少している。かすやこども館運営管理事業の年間来館者数は、目標値は倍増の目標を立てているが、実績値は横ばいである。
- ・ 課題を把握し、取り組みもされているが、結果はでていないと言わざるを得ない。役場全体、あるいは町全体でこの施策を後押しできるような体制となることを望む。

(2) 内部評価の妥当性について

内部評価の妥当性については、委員全員が「概ね適切」という評価になった。

また、各委員から次のような意見があった。

- ・ 評価結果を踏まえた今後の方向性、方策は妥当であるが、町が積極的に関与して、スピード感を持った対応が必要である。
- ・ 評価、改善において、もう少し具体的な数字がほしい。例えば、学童保育所運営事業において、全指導員が放課後児童支援員の資格取得を目指す旨が記されているが、今現在、何人の指導員がいて、何名が取得済みであり、向こう何年間で、100%を目指すのか、また、子育て支援事業において、ボランティアの人材確保が困難であった旨が記されているが、その具体的な根拠や理由、方策を示されたい。
- ・ 課題解決に向けた具体的な方策・提案は、概ね適切だと思うが、早急に待機児童の解消に取り組む必要がある。
- ・ 課題はよく把握されていると思うが、解決に向けての取り組みに進捗があまり見られないように感じる。町単独で決定することが難しい事業が多くあり、時間を要することは目に見えているからこそ、スピードを上げて町の方向性は固めるべきではないかと思う。
- ・ 内部評価における進行管理の現状認識に関しては妥当と考えるが、子育て世代のニーズをよく理解し、既存の事業を継続するだけでなく、事業の見直しや新規事業の実施なども積極的に行っていただきたい。
- ・ 人口が伸び続けているので、スピード感を持って事業に取り組まないと、なかなか追いつかないと思う。

(3) その他意見等

その他の意見等としては、次のようなものがあった。

- ・ 課題解決にむけた具体的な行動計画を示してほしい。例えば、人材を確保するためにどういう行動をするのかを示してほしい。
- ・ 全体的にわかりやすい説明であったが、データや根拠があいまいなものもあった印象である。

- ・ 実感指数である、子育て環境が整っていると思う町民の割合は、40.2%であり、当初値より上昇している。しかし、あまりそう思わない、そう思わない、の合計値や、年齢別の30～44歳でその値が高くなっている。この点も見据えて、施策を展開されたい。
- ・ 人口が増え、避難所の確保が難しい中、子供広場の活用は有効策であると思う。区の管理のみに留まらず、町からも助言し、有効な活用方法を見出し、地権者の理解へとつなげてもらいたい。
- ・ こども館の活用がまだ充分ではないと思う。
- ・ 事業の過去の経緯について、現担当の職員が事情をよく知っていないような趣旨の説明があった。事業への取り組みや見直しを行うにあたっては、過去の経緯や当初の考え方について、前任者と十分な事務引継ぎや確認を行い、よく理解しておいてほしい。

3. 本施策に係る外部評価のまとめ

子育て支援に関する本施策は、町における重点施策として取り込まれているものの、取り組みに関しては多数の委員が「取り組まれているが、まだ改善の余地がある」と評価した。改善の余地があるとした意見では、老朽化した保育所の対策、保育士の処遇改善、待機児童の解消や多様な人材活用に関する意見があった。進捗に関しては、全ての委員が「進んではいるが、スピードが遅い」と評価した。スピードが遅いとした理由では、保育所や学童保育所の諸課題を把握できている一方、人口が増加し続けている状況下において、町が早急に方向性を示し、積極的に諸課題に取り組む姿勢をより強く求めるものであった。また、事務事業シートにおける実績値が目標値を下回っていることや、活動実績に対する具体的な根拠、理由、方策など、評価、改善における具体的な分析を求める意見があった。内部評価の妥当性については、全ての委員が「概ね適切」と評価した。その他の意見として、子ども広場やこども館のさらなる有効活用を求める意見があった。

人口の増加のみに留まらず、保育ニーズの増大や多様化により、保育士をはじめ、職員の負担も増大していることは理解できるが、今後も子育て世代から選ばれ、住み続けたいと思うまちを目指すためにも、諸課題に対してスピード感を持って取り組み、質の高い保育の提供に努められることを期待したい。

■総合計画の施策体系（４－１－１）■

基本目標 4	健全で持続可能な行政経営をめざすまち
政策 1	町民のための行政経営のまちづくり
基本施策（1）	まちの魅力を高める情報発信の推進

1. 委員会における施策の選定理由

行政情報やまちづくりに関する情報をわかりやすく発信し、町民のまちづくりの関心を高め、協働のまちづくりを進めるためにも情報発信の推進は必要である。また、町への愛着や誇りを高め、町の魅力を町内外に発信するシティプロモーションの視点を取り入れた情報発信について必要な方策を検証するためにも本施策を外部評価の対象とした。

2. 委員会の評価結果及び意見等

本施策に関する委員会としての外部評価の結果は、以下のとおりである。

(1) 総合計画の進行管理（施策実現への進捗状況）	
① 施策実現への取り組みが行われているか？	
着実に取り組まれており評価できる	11%
取り組まれているが、まだ改善の余地がある	78%
取り組みが不十分であり対策が必要である	11%
取り組みがなされていない	0%
② 施策の実現に向かって、進捗しているか？	
計画以上に進んでいる	0%
計画どおり順調に進んでいる	22%
進んではいるが、スピードが遅い	78%
進捗が見られない、または後退している	0%
(2) 内部評価の妥当性について	
適切	0%
概ね適切	100%
要検討	0%

(1) 総合計画の進行管理（施策実現への進捗状況）

① 施策実現への取り組みが行われているか？

施策実現への取り組みが行われているかについては、「取り組まれているが、まだ改善の余地がある」という評価が78%であった。

また、各委員から次のような意見があった。

- ・ 広報かすやの刷新、フェイスブックの開設など、積極的に取り組んでおり、評価できる。
- ・ 福岡市では、公式 LINE ページを開設し、ごみの分別の検索や、防犯情報の

提供などを行っている。非常に便利と好評で、ユーザー数が増加していると聞く。このような取組みも参考とされてはどうだろうか。

- ・ 広報かすやは紙面の刷新に専門家の意見が入り、読みやすい内容に充実されたことは評価できる。ホームページも同様に専門家や外部有識者の意見を取り入れ、刷新すべきである。
- ・ インターネットを利用しない、できない方々のための広報媒体も検討すべき。
- ・ 地域の特性は、地元の人たちには見えていないことが多い。転入者あるいは他町から、どう見えるかを把握した上での取組みが必要である。
- ・ 町民向けの広報のみではなく、シティセールスの視点も取り入れ、町の魅力をもっと情報発信できるような取組みを期待する。

② 施策の実現に向かって、進捗しているか？

施策の実現に向かって進捗しているかについては、「計画どおり順調に進んでいる」という評価が22%、「進んではいるが、スピードが遅い」という評価が78%であった。

また、各委員から次のような意見があった。

- ・ 広報という分野は、町民とのコミュニケーションの場であっても良いと思う。町民ニーズを受け取るだけでなく、町民に向けた問題提起や隠れた逸材を探し出すようなツールであってほしい。
- ・ 紙面媒体は、広い年齢層に読んでもらえるという利点もあるが、どうしても情報が遅れがちになるため、インターネットとリンクさせた効果的な広報を工夫していただきたい。
- ・ スマートフォンやタブレット端末対応、SNSの利用など若年層への対応は早急な課題であるが、高齢者への対応も必要である。
- ・ スマートフォン対応などは他の自治体より率先して行っていただきたい。
- ・ 町外の人たちが来てみたいと思えるようなPRをしてほしい。
- ・ 窓口アンケートの利用方法は検討の余地があると思われる。
- ・ 成果指標であるホームページユーザー数について、平成29年度の目標値は40,000人で、平成28年度の目標値と同じであった。このような現状維持的な設定で良かったのか気になる。しかも、平成29年度の実績値は前年度から減少している。

(2) 内部評価の妥当性について

内部評価の妥当性については、委員全員が「概ね適切」という評価になった。

また、各委員から次のような意見があった。

- ・ 現状を分析し、課題も把握されているように見受けられる。
- ・ 今後の方向性について、具体的な案もあり、次年度以降の方策、解決に期待が持てた。
- ・ 進行管理の現状認識に関しては妥当と考える。また、取組みの成果や今後

の課題が、分かりやすく適切に記載されており、よく理解できた。

- ・ 選挙の投票率が低いなどの点を広報の立場から検討してはどうか。
- ・ ホームページユーザー数の目標値は実績値から当たりさわりのない数字を出されているのではないか。もっと高い目標を設定して新しいホームページを作っていただきたい。

(3) その他意見等

その他の意見等としては、次のようなものがあった。

- ・ 情報のより良い発信方法を今後も検討してほしい。
- ・ 窓口アンケートについて、その内容を庁内で検討し、業務報告として町長まで報告することと、とてもよい取り組みである。それに加えて、アンケートへの応答の結果、成果を、広報誌やホームページなどで、町民に知らせる、見せる、アピールすることも検討されてはどうか。そうすることで、アンケート回答者をはじめ、町民による町政への信頼性の向上につながり、アンケート回答者数も増えるものと思われる。
- ・ 広報媒体を活用した広告事業などの財源確保の取り組みも拡充させて行った方が良いのではないか。
- ・ ロビーにあるモニターはテレビ番組ではなく、広報の内容や町、行政区の紹介などを映し出したらどうか。
- ・ 転入者に行政区の情報を発信するようにしてほしい。

3. 本施策に係る外部評価のまとめ

情報発信に関係する本施策の取り組みについて、多数の委員が「取り組まれているが、まだ改善の余地がある」と評価した。広報かすやの刷新や、フェイスブックの開設などの取り組みを評価する一方、先進自治体における評価の高い情報発信の手法を取り入れることや、高齢者など、インターネットを利用しない人への情報格差を生み出さないための新たな広報媒体も検討すべきなどの意見があった。進捗に関しては、多くの委員が「進んではいるが、スピードが遅い」と評価した。スピードが遅いとした理由では、ホームページに関して、スマートフォン対応が遅れていることや、成果指標であるホームページユーザー数の目標値を問題視する意見があった。内部評価の妥当性については、全ての委員が「概ね適切」と評価した。その他の意見として、広聴活動において、窓口アンケートの取り組み内容は評価できるが、その結果を町民に知らせ、改善されたことはアピールすることも検討すべきとの意見があった。また、災害時における情報発信として、行政側の発信する情報の統一や、発信方法の周知、さらには防災意識の向上に取り組むべきとの意見があった。

施策評価の現状分析、課題、方向性については具体性があり評価できるが、今後さらに町に対する愛着や誇りを高め、町の魅力を町内外に発信する、シティプロモーションの視点を取り入れた情報発信にも取り組まれることを期待したい。

■ 総 括 ■

本委員会は、町が実施する行政評価について、総合計画の進行管理を行い、客観性の一層の向上を図り、信頼性を確保するために、行政外部の有識者及び町民の視点で審議し、評価を行っています。

今回は第5次粕屋町総合計画2年目の行政評価となり、昨年度の行政評価において、外部評価対象の施策評価説明や質疑応答の充実を求めた結果、担当部署による説明時間を1回増やし、計4回開催しました。

内部評価としての行政評価は年々改善が施されていますが、一部の事務事業において、データの根拠や分析があいまいなものや、評価、改善における具体性が伴わないものがありました。町民意識調査などのアンケート調査を有効活用され、総合計画の進捗管理に留まらず、世代や地域ごとのニーズの分析やより掘り下げた意見把握を行い、事業の見直しや新規事業の実施などに取り組まれることを期待します。

粕屋町の一層の発展へ寄与することに期待を寄せ、平成30年度粕屋町行政評価委員会の意見といたします。

粕屋町行政評価委員会 名簿

区 分	氏名	所 属
学識経験 のある者	◎	中島 邦彦 九州大学大学院 教授
	○	宗像 優 九州産業大学 教授
町の区域内の 公共的団体の 役員又は職員		坂田 龍二 区長会
		安河内 勇臣 農業委員会 会長
		八尋 徳子 婦人会
		中尾 和子 商工会 女性部 副会長
		萩尾 浩記 SUN ² かすや新風会 会長
		長 順子 子育て応援団 代表
公募等による町民		森 義範 公募委員
		西田 寛貴 公募委員

◎=会長、 ○=副会長

粕屋町行政評価委員会 開催経過

平成30年度の粕屋町行政評価委員会の会議開催日・内容及び外部評価の経過等については、下表のとおりです。

回数	開催日等	内 容
第1回	日時：平成30年10月16日（火） 午後1時から 場所：粕屋町役場3階 31会議室 出席：9名	<ul style="list-style-type: none"> ・行政評価制度の説明 ・平成29年度施策の概要説明 ・外部評価対象とする施策選定
第2回	日時：平成30年10月23日（火） 午後1時から 場所：粕屋町役場3階 31会議室 出席：9名	<ul style="list-style-type: none"> ・外部評価対象の施策評価説明及び 質疑応答
第3回	日時：平成30年10月30日（火） 午後1時から 場所：粕屋町役場3階 31会議室 出席：9名	<ul style="list-style-type: none"> ・外部評価対象の施策評価説明及び 質疑応答
第4回	日時：平成30年11月13日（火） 午後1時から 場所：粕屋町役場3階 31会議室 出席：7名	<ul style="list-style-type: none"> ・外部評価総括